

Start & Challenge **のびのび子育て目指し上映会とトーク**

子どもがのびのびと育つ地域作りを目指したイベント「教えから学びへ 映画『ゆめパのじかん』上映会&トーク」(市、市教育委員会後援)が18日(土)午後2時から西河原公民館で開催される。

子育て中や経験者6人で昨年2月に結成した「こまえ・こどもの権利を考える会」(豊田美由紀代表)が催す



映画『ゆめパのじかん』より

もの。9月の狛江フェスティバルで道路を子どもの遊び場にする「こどもひろば」を開いたり、子どもや親との交流会を通じ、子どもの権利について考え、市民の理解を深めるための活動を行っている。

市民公益活動事業補助金スタート補助金を受けて催す今回のイベントでは、川崎市の子どもの遊び場「子ども夢パーク」のドキュメンタリー映画「ゆめパのじかん」上映と、東京大学名誉教授で白梅学園大学名誉学長の汐見稔幸さんと、夢パーク前所長の西野博之さんのトーク『「こどもの時間」をとりもどす』が行われる。定員先着200人で参加費1,000円(高校生以下無料)。申し込みはQRコードから。

問い合わせ [Mkomae.kodomo.kenri@gmail.com](mailto:komae.kodomo.kenri@gmail.com) こまえ・こどもの権利を考える会。



22日から障がい者の多彩な作品を展示

市内や近隣の障がい支援事業所の利用者の作品を展示する「パラアート展覧会 ミチはここから展」(市、市社会福祉協議会后援)が22日(土)～25日(日)午前10時～午後6時(最終日5時)、泉の森会館ギャラリーで開催される。

アートをきっかけに、障がいを持つ人との交流や理解を深めようと、「わたしたちはここにいるよプロジェクト」(今西千晶代表)が市民公益活動事業補助金のスタート補助金を受けて催す。通所施設など9団体と個人参加の6組による水彩画、色鉛筆画、立体、デジタルアートなど約80点を展示する。また、食品や雑貨など、各事業所で作られた製品の販売も行う(午前10時30分～午後1時・2時～4時、変更あり)。23日(日)午後2時から日本画の固形絵具(顔彩)を使って全員で1枚の和紙に絵を描く「顔彩ワークショップ」も催される(参加無料)。



展示する作品

今西さんは「会場には作者の『アートが好き』という思いが爆発している作品がたくさんあるので多くの人に知ってもらい、つながる機会になれば」と来場を呼びかけている。入場は無料。

問い合わせ [Mkokoniiruyo.project@gmail.com](mailto:kokoniiruyo.project@gmail.com) わたしたちはここにいるよプロジェクト。

ウクライナ人講師に招き 狛江高校で国際平和学習

都立狛江高等学校で12月18日(土)に国際平和理解学習が1年生319人を対象に4人のウクライナ人を講師に招いて行われた。

NPO法人日本ウクライナ友好協会KRAIANYのメンバーである狛江在住のナタリアさん、その母でウクライナ南部のザポリージャから避難してきたマリアさん、同協会副理事長のイゴールさん、ダンサーのナタリアさんが講師となり、同高の外部講師を務める辻村ともこさんの進行でロシアによる侵攻の様子、ウクライナとロシア両国の近代の歴史など生々しいエピソードを交えながら解説、「立場が違っても一人ひとりが平和について考え、行動することが大切」と訴えた。また、ウクライナの民



ウクライナの民族舞踊も講習

族舞踊「カルトプリヤ」を生徒たちに指導した。

生徒たちは「ウクライナのリアルな話を聞いて、平和のための努力が必要だと思った」「プレゼンが分かりやすく、ダンスも楽しかった。世界平和のために何ができるか考えたい」などと話していた。

Jリーガーの豊田選手 母校緑野小で出前授業

狛江市出身でJリーグのロアッソ熊本に所属する豊田歩選手

(23)が12月22日(土)に母校の緑野小学校で出前授業を行った。

自分の夢や希望に向けて努力する大切さと将来について学ぶ「キャリア教育」の一環として5、6年生の児童189人を対象に体育館で行われた。

授業では、豊田選手が子どもの頃の夢や好きな科目、勉強との両立方法など、児童からの質問に答えた。続いて先生などとPK対決を行い、豊田選手が正確なキック



緑野小の児童とミニゲームを楽しむ豊田選手(左)



Shop & Service Guide ...31 **いらっしやいませ** **長島理税理士事務所**

長島理税理士事務所は個人・法人を問わず会計処理や納税など税務全般について業務・相談を行っている。顧客は個人と法人がほぼ半々で、都内と首都圏近郊が大部分を占めるが、北海道から沖縄まで全国各地に及ぶという。狛江三叉路近くにある事務所では、代表の長島さん(40)のほか、正社員2人、パート社員3人が、依頼された日々の入出金をコンピューターの経理ソフトに入力するほか、決算資料や国や自治体に提出する税務関係の資料の作成やチェックなどを行っている。また、相続などに伴う税務処理や相談にも応じている。最近では、昨年のインボイス制度の導入や相続・贈与税の改正に伴う相談も増えているという。

幅広い税務処理や相談に対応 地域活動にも精力的に取り組む



長島さん

☎5856-7030 東和泉2-1-12、営業時間=午前9時～午後5時、土曜・日曜・祝日休み

でゴールを決めると大きな拍手が上がっていた。最後に児童代表が豊田選手を交えてミニゲームを行った。児童たちは「キックが早くて正確でびっくりした」「一緒にゲームができて楽しかった」「これからもっと応援したい」と喜んでいた。

また24日(日)に緑野小で催された少年サッカーチームN.W.FCのクリスマス会に参加、後輩たちとゲームなどで交流を楽しんだ。豊田選手は小学1年生から4年生まで在籍したが、横尾真監督は「おとなしいけど芯が強い選手で、左

キックがすごかった。是非J1に昇格し、日本代表をめざしてほしい」と語っていた。豊田選手は「久しぶりに母校を訪れて懐かしく、後輩と交流ができ、良い経験になりました」と話していた。

豊田選手は昨年入団し、リーグ戦は10試合に出場、天皇杯は準々決勝と準決勝に出場しキッカーを務めるなど活躍した。

名誉市民の木村大作監督 講演と「鉄道員」を上映

狛江市名誉市民で文化功労者の映画監督木村大作さんの講演と

長島さんは、神奈川県の箱根町に生まれ、平塚市で育った。子どもの頃から算数や数学が好きだった長島さんは、バブル崩壊後の不況によるリストラや大手証券会社の倒産のニュースに触れて、会社員は安泰ではないと感じた。中学生の時、「手に職をつけるか、資格のある専門職に就きたい」と母親に相談したところ、税理士事務所に勤めていた母から仕事の内容を聞き、税理士になることを志したという。その後は大学商学部へ入学、18歳で狛江市に転居して一人暮らしを始め、卒業後は都内の税理士事務所に就職して知識と経験を身に付ける一方、税理士資格取得のための勉強を続け、国家試験に合格した。

27歳で独立し、住居の一室に長島理税理士事務所を開業した。ほとんどゼロからのスタートだったが、知人のツテを頼って顧客を徐々に増やした。その後、自宅近くに事務所を構え、スタッフも増えたため、平成28年に現在の事務所へ移転した。

学生時代から住む狛江が好きで永住の地と考えるようになり、東日本大震災をきっかけに地域活動への関心を強め、平成25年に税理士仲間から誘われて狛江青年会議所へ入会。さらに狛江市消防団にも入団するなど、様々な会に参加して地域奉仕など活動の幅を広げてきた。狛江ラジオ放送株式会社(愛称・コマラジ)の設立にも関わり、取締役財務部長を務めるほか、税に関する番組を月1回担当している。

長島さんは総務・経理を担当していた会社員の父にならって「何事もコツコツ真面目にやる」のが信条。「わかりにくい税制を、なるべくわかりやすく説明し、節税も様々な制度があるので顧客のためになるアドバイスをする」ことをモットーにしている。「税理士事務所は敷居が高いと思われがちだが、税金で困ったことや知りたいことがあれば、気軽に相談して」と話している。

「鉄道員」の上映会が1月13日(土)にエコーホールで催され、約434人が参加した。

木村さんは講演で、カメラマンを担当した「鉄道員」撮影時のエピソードや主演の高倉健さんとの交流などをユーモアたっぷりに紹介し、客席からは笑いや拍手が上がっていた。



木村監督